

# 1 なぜ今、改めて言語活動の充実か

○急速な社会の変化(知識基盤社会の到来、グローバル化の進展)から

「2011 年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの 65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。」  
デューク大学 キャシー・デビッドソン教授

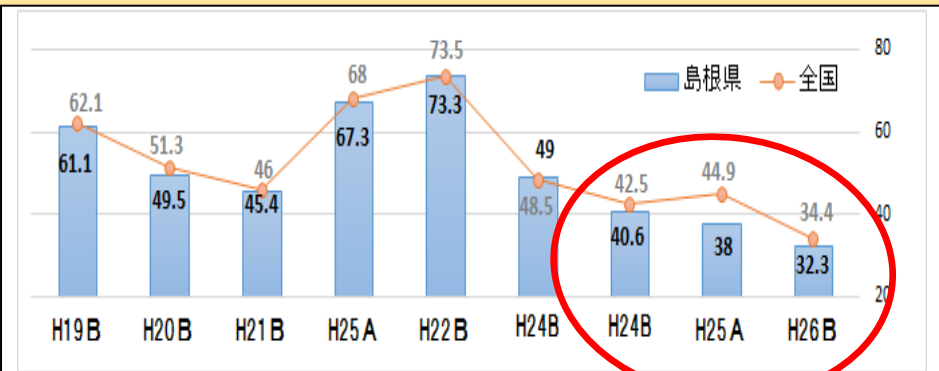


「何を知っているか」から、「知っていることを活用して何ができるか」が重視される時代へ

「知る・覚える」というインプット偏重から、「話す・書く」などのアウトプットを大切に学習活動、すなわち「言語活動の充実」が求められる。

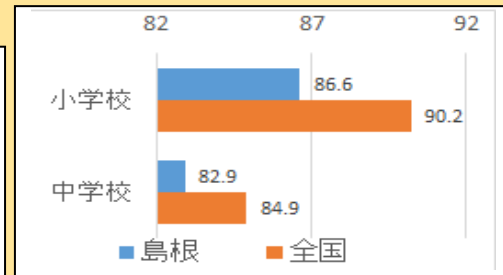
○全国学力・学習状況調査の結果から

小学校国語A・B「記述式問題」における島根県と全国の平均正答率の推移(H19~H26経年変化)(単位:%)



直近の3年間は、全国の平均正答率より2%程度以上下回っており、改めて「説明する力」「記述する力」を育てることが喫緊の課題と言えます。

H26 学校質問紙項目より、県と全国の比較(肯定的回答合計)(単位:%)



質問:「小6、中3の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。」

# 3 言語活動の充実のためのポイント②

思考力・判断力・表現力をはぐくむ観点から、言語活動を充実する

①体験から感じ取ったことを表現する

・例) 言葉、絵、歌、身体を用いて表現する

②事実を正確に理解し伝達する

・例) 観察や見学の結果を記述・報告する

③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

④情報を分析・評価し、論述する

・例) 学習や生活上の課題について、事柄を比較・分類・関係付けるなどの技法を活用し、課題を整理する

⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

・例) 仮説を立て観察・実験を行い結果を整理し、考察し、まとめ、表現する

⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

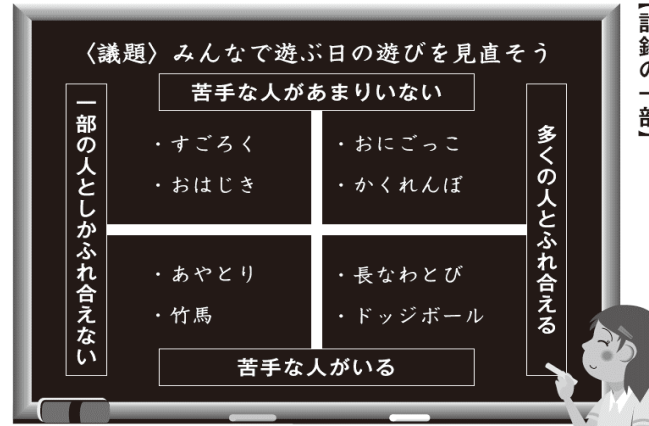
・例) 問答やディベートの形式を用いて議論を深める

◆低学年のうちからこれらの活動を位置付けることが重要です  
◆「指導事例集」の各事例は、上の6項目のうちのどれにあたるのかを校内で共有し、系統的に思考力・判断力・表現力を培いましょう。

## 言語活動の充実

各教科の目標を実現するための手立てとしての言語活動(記録、要約、説明、論述等)の充実を

全国学力・学習状況調査の調査問題の場面設定は、平素の授業にそのような授業場面を設けてほしい、というメッセージが込められています。



【記録の一部】

(平成二十六年全国学力・学習状況調査 小学校国語A「問題」から)

- 出された「遊び」を、場所やルールごとにそれぞれ整理してこる。
- 提案の理由に合わせた複数の観点を決め、それらを合わせて「遊び」を分類してこる。(正答)
- 出された「遊び」をみんなが参加できると考えられる順番に上から並べてこる。
- 一つの「遊び」を取り上げ、そこからほかの「遊び」を連想して広げこる。

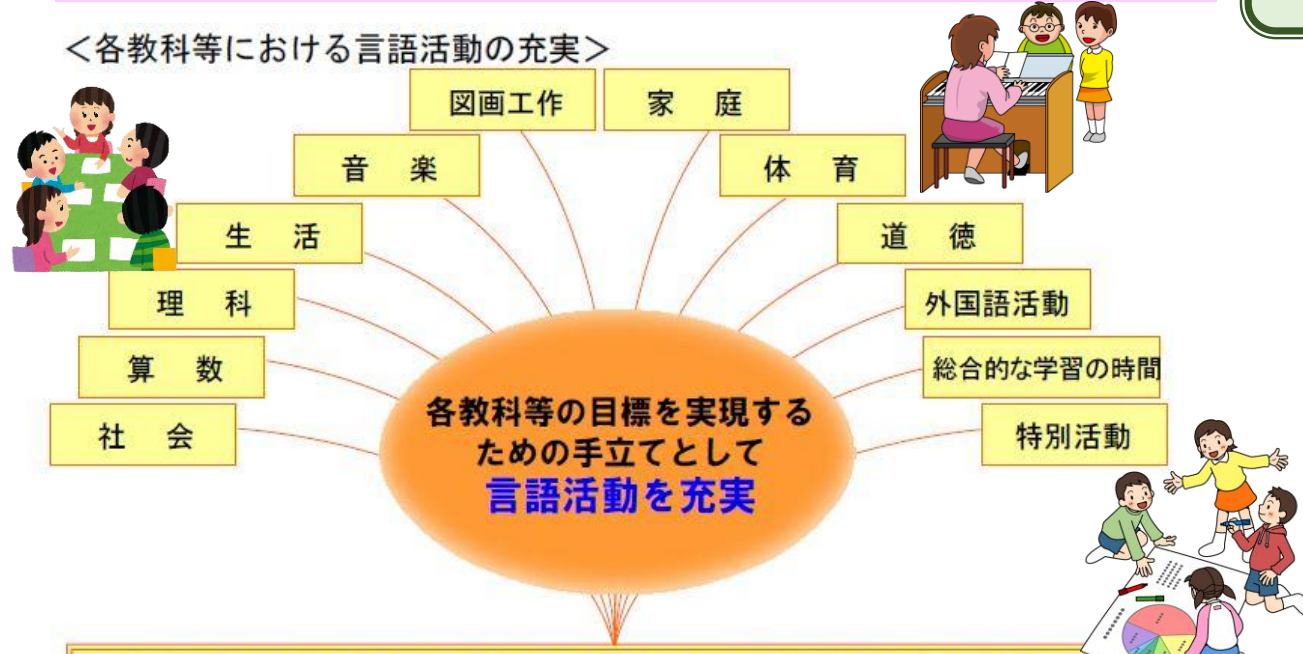
岩村さんの学級では、みんなが参加でき、多くの人とふれ合えるように、「みんなで遊ぶ日の遊びを見直そう」という案が出されました。それを議題として話し合いをしていきます。左図は、話し合いの内容を黒板にまとめた【記録の一部】です。まとめ方の説明として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

この調査問題は「言語活動の充実に関する指導事例集」の特別活動編に掲載されている、実際の授業実践を基に作られた問題です。話し合い活動の充実のために、ただ「話し合いなさい」ではなく、思考ツール(ここでは「座標軸」)を用いて議論を可視化したことから、児童の意欲を喚起し、深まりのある話し合いを実現させることができました。これらは、国語科だけではなく各教科においても取り入れることが大切なのです。

# 2 言語活動の充実のためのポイント①

各教科等の指導において言語活動を充実する

〈各教科等における言語活動の充実〉



国語科: 基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う